

第7回 多治見市総合計画策定市民委員会 会議録

日 時	令和元（2019）年8月23日（金）15時00分～16時30分
会 場	多治見市役所本庁舎 2階 大会議室
出席委員	菊地裕幸委員（会長）、鈴木亜紀子委員（副会長）、伊藤健委員、加納明子委員、木下貴子委員、桑原真紀委員、佐藤薫委員、柴田真希委員、仙石治郎委員、高木重則委員、丹羽一貴委員、堀尾憲慈委員、向井一仁委員、山田美穂委員、山本真行委員 （委員 15名 15名出席）
欠席委員	なし
事務局	鈴木企画部長、伊藤企画防災課長、小木曾課長代理、武井総括主査、後藤総括主査、前原主査、土本主査、市制80周年記念事業担当者・水野（琢）課長代理
傍聴人	3名

会議録要旨

1 挨拶（企画防災課長）

2 議事（1）「基本構想（財政推計）」見直し案について

- 会長 資料3について事務局に説明を求める。
- 事務局 （資料3について説明）
- 会長 それでは意見はありませんか。
- 委員 財政状況について、プラスになると十分なサービスが市民に提供できていない、逆にマイナスだと財政的によくないという話で、非常に難しい財政バランスだなどと思う。その中で、健全を判断する指数について、いつの時代のどういう規模の財政状況を基準にして判断をしているのか。
- 事務局 財政判断指数については、多治見市健全な財政に関する条例に基づき、財政判断指数を出している。平成8年に多治見市は財政緊急事態宣言を発表して、その後、事業費の削減など行政改革に取り組んだ。財政判断指数については、同級他団体等いわゆる多治見市と同規模の自治体の水準を参考にしたり、これまでの多治見市の財政の推移を参考にしたりして、「これなら安全なのではないか」という水準で、平成19年に設定した。
- 委員 財政調整基金の充足率が年々下がっているということで、要するに貯金を取り崩していくという説明だったが、今は第7次総合計画だが、例えば第8次、第9次となったときに財政調整基金がゼロもしくはマイナスになった場合、これは例えば民間の会社でいえば銀行からお金を借りることになるのか。おそらくその辺りも含めての、「経常収支比率」だと思うが。
- 事務局 財政調整基金というのは貯金。なぜこれを見ているのかというと、まず、決算の際の剰余金の半分を財政調整基金に積むことが地方自治法で決まっている。それを見越して、当初予算で財政調整基金をいくらか下すというのを多治見市はルールとして持

っていて、年間 8 億円くらいを見込んでいます。つまり毎年度 16 億円ぐらいは、決算剰余金が出てきて、そのうち 2 分の 1 を財政調整基金つまり貯金に積む。それを当初予算に計上するというのがこれまでルール。我々は年度単位で考えており、一般企業と違ってお金が入ってきてそれを運用するというように現金で考えているわけではないので、あくまでも財政状況についてある程度、年度ごとに調整する機能がいるということで、それを財政調整基金という貯金を使って調整しているという仕組み。財政調整基金の充足率 5% というのが我々としては最低ラインと考えていて、それを下回らないように運営していけばなんとか予算を組めるし、ある程度、適正な予算執行ができるものだと思っている。

委員 では、現在の財政調整基金の充足率は 5% 以上あるので、しばらくは大丈夫という理解で良いか。

事務局 我々としては貯金はたくさんあった方が良く、特に財政面からは考えるが、貯めるばかりで本当に使わなければいけないときに使わないのもどうなのかも考える。今回の小中学校、幼稚園、保育園へのエアコン設置についても財政調整基金を使っているし、現在進行中の駅南の再開発についても通常の予算では組めないで、財政調整基金からお金を入れて事業を進めていく。これらの事業は将来の多治見市にとって最優先の事業だと考え、そういうときに貯金を使って、また財政が落ちつければ貯めていく。

委員 つまり、企業的に言うと内部留保みたいなもの、それを取り崩して使っていくということで理解した。

委員 経常収支比率が 100% を下回っているのだから、一般的に考えて問題ないでしょうということだが、一方、借金である市債を含めた場合、実態的な経常収支比率は 100% を超えるというイメージか。

事務局 経常収支比率というのは、経常的な費用が全体の予算の中で何% を占めるかという数字。これは目標として 88% 以下にしたいということで、これが低いほうがより投資をしている、予算の柔軟性があるという指数。これが 90%、95% となるにしたがって経常的な予算が膨らみ、自由な予算が減ってしまうと理解いただきたい。実態収支というのは財政上の用語ではなく、多治見市独自の考え方。実際、黒字だったのか赤字だったのかなかなか見えにくいというのがあり、皆さんにわかりやすく示したいということで、貯金を崩して予算を大きくし、予算上をトントンにすることをやっているが、そうやって貯金を取り崩せば崩すほど、この実態収支の数字がマイナスになっていく。マイナスになったからダメということではなく、市民の皆さんにも単年度でみたときにどうだったかということを知りやすく示すためのもの。これがマイナスだから赤字というわけではない。

委員 民間の企業でいうところの経営分析の比率や用語と名前が似ているので誤解していた。

事務局 民間企業でいうと、いわゆるキャッシュフローっていう現金がどうなったのかを見るものがあるが、実は我々はこれまでキャッシュフローという考え方を持っていなかった。それを、民間の方々が当たり前のようになっているキャッシュフローという考

え方でみてみると、この実態収支というのがキャッシュフローで出した数字なので、予算上マイナスになっているのは貯金を崩して予算に充てたからということであって、いわゆる民間で使われる会計用語ではなく、行政上の会計用語なので、ちょっとわかりにくくて申しわけないが、この辺は用語説明を冊子に掲載するし、基準についても同様に載せたいと思っている。

委員 あとこれは感想だが、償還可能年数が例えば5年とか6.3年とかとあるが、普通に考えると短期で償還できそうだが、これも行政用語ということで理解した。

会長 それでは、これまで皆様より御意見がありました第7次多治見市総合計画後期計画の見直し案についての議論は本日の財政推計を含めて、ここで締めくくりとさせていただきます。この後は、市民の方々や、議会でのやり取りに委ねていきたいと思えます。これまで約半年間にわたって活発な御意見まことにありがとうございました。

2 議事（2）「議論を終えて」について

会長 資料4について事務局に説明を求める。

事務局 （資料4について説明）

会長 ご意見はありませんか。

委員 （なし）

会長 それでは資料4の内容で市長報告を行うものとする。

2 議事（3）市制80周年記念事業について

会長 資料5について事務局に説明を求める。

事務局 （資料5について説明）

会長 ご意見はありませんか。

委員 観光大使のうち、⑥神奈月さんは多治見とどういう関係か。また、⑦問題龍さんはどのような方か。

事務局 神奈月さんですが、土岐市生まれで多治見市北高校出身ということで、多治見市に縁のある方ということです。問題龍さんは多治見高校の出身で、プロレスラー。現在ドラゴンゲートという団体に所属され、熱心に福祉活動をされている。

委員 市制75周年は何か特別な取組みが行われたのか？

事務局 毎年、「市制〇〇周年」という形で市制記念表彰を行っていますが、大きいのは10年おきの周年。ただ、75周年のときには、ちょうど笠原町と多治見市の合併10周年でもあったので、市制75周年と合併10周年を記念したプレートを主要な公共施設などに張り付けるようなことをした。

委員 私は市制70周年の記念事業の委員をやっていたが、特に何か大きく盛り上がった

記憶がない。市制 80 周年を盛り上げるっていうのはわかるが、どんちゃん騒ぎのお祭りで盛り上げるのか、そうではなくて多治見市全体が新しい方向を向いていくためのきっかけとして、例えば多治見市役所の人と地域の人が集うとか、もうちょっと目的を明確にできると良い。失礼ながら今、挙がっている事業だとなんとなく知っている人が行って終わってしまうような気がする。ちなみにこれ、オリンピックとタイミング的に被るので、既存事業のグレードアップでいいと思うが、何かもうちょっと目玉的なものをドカンと出すと良いのではないかな。あと、市制 70 周年に関わったときに記憶にあるのが、何かいろいろこちらから意見は伝えても、「規制があってできない」という回答がその当時の市役所の皆さんは仰っていて、たぶん今の市役所は違うと思うが、当時は「何を言ってもできないんじゃないか」という感想を持った。だから、何か新しいこととは言わないが、できればもっと目的を掘り下げて、市民の皆さんと一体となれる記念事業にしていただければいいかなと思う。

事務局 市制 70 周年記念事業のうち、規制が厳しかったもので思い当たるのは、土岐川にランプシェードを浮かべるというアイデアがあったが、土岐川に物を浮かべるということについて洪水とかいろいろあって、結果的に道路の堤防に置くことになったことはある。その他、「未来の絵画コンテスト」とか、「お宝鑑定団」や「のど自慢」など既存のテレビ番組の公開収録を行ったり、公共施設のオープニングがあった際には記念で大きなイベントをやったり、「うながっぱ」がまだできて間もなくだったこともあり、やなせたかしさんをお呼びしてアンパンマンコンサートをやったりした。あとは市制 70 周年のシンボルマークも公募して、多治見工業高校の生徒だったと思うが、グランプリを取られ PR をした。いずれにしても、もっと皆さんの記憶に残ることをやった方が良いのではないかなというご意見だと思う。我々もご意見を参考に事業案を考えるので、引き続き 80 周年でもご協力をお願いしたい。

委員 事業として継続的できるものとか、もしくは総合計画と何らかに関連付けられる事業が良いのではないかな。市制 70 周年のときに、「多治見グルメコンテスト」というのがあって、「たじみそ焼きそば」がグランプリを取った。それをきっかけにして飲食店組合などが中心となって今、24 店舗くらいで提供していると思うが、そういうことが市制 70 周年をきっかけにして生まれて、飲食業界やまちづくりに貢献している。そういう切り口で、地域に根差した市制 80 周年事業をやって、その日で終わりというよりも、その日から何か発展すれば良いかなと思う。もう一つ、総合計画との関連では、予算がどのくらいかけられるかにもよると思うが、例えばすでに、「セラミックバレー」の PV があるが、その動画の多治見版を作成するとか、観光に関する連携という切り口では、例えば今は全国の“暑いまち”と連携していると思うが、逆に寒いところなんか、北海道だと「しばれまつり」というのがあるそうだが、相互交流をして寒い地域の方がこっちに来ると、「やっぱり地元が良いね」、逆にこちらから寒い地域に行くと、「やっぱり多治見が良いね」というように、いろんなアイデアがあり得ると思うので、幅広くに市民の方から意見を聞いてみると良いかなと思う。

事務局 たじみそ焼きそばのように後々に続いていくような事業というご指摘があった。そういう視点で考えていければと思う。

委員 既存の事業をグレードアップしていくという事務局側の説明だが、陶器祭や美濃焼祭では何か特別なことを考えているのか。あと、行政以外にも市民団体などでシンボルマークを積極的に使って欲しいとのことだが、そのあたりに関する補助金などは考えているか。

事務局 補助金については考えていない。市民団体については多治見市との共催事業などもあると思うので、そういった機会にロゴマークなどを是非使っていただき協力いただけると有難い。陶器祭は実行委員会でするので、ちょっとこちらではっきりしたことは申し上げられないが、実行委員会側も来年が市制 80 周年であることは認識していると思うので、陶器祭に限らずそういったイベントに関しては担当課を通じて周知し、協力を求めたいと思う。

委員 補助金の話に関連して、誰に聞いても、「多治見は金がない」という返答があるが、本当はどうなのか。

事務局 節約をして、できるだけいろいろな事業をやろうという気持ちで職員が業務に取り組んでいるのは間違いない。確かに今まで、過去に出していた補助金を見直して、本当に必要な方に補助金を回すとか、そういったことは逐次しているし、多治見市よりももっと予算が潤沢な他の自治体と比較したときに、「金がない」と答える職員は多いのかなと思う。ただ、私も他の自治体職員と話す機会があるが、多治見市には、「自分でやらなきゃいけない」という人が多いというか、そういう意味では本当に市民の方の意識が違うかなと思っているので、そういった市民の方々に日ごろからご協力をいただいてやっていけていると感じている。

委員 市制 50 周年のときに私も関わって、「三輪車レース」というのをやっていって、そういった団体・グループが取り組む活動について補助が出ていたが、補助金の件は答えをいただいた。あと、市制 80 周年を市民が皆でお祝いできる、そんな雰囲気にしていきたい。さきほど柴田委員から、「大きなことをやってはどうか」というお話があったが、フェスティバルみたいな、大きなことを一つっていうのもいいかもしれない。それが難しければ、例えば同じ日、同じ時刻に各区または各校区で何かをやるというのはどうか。式典などもあるが、今までの様子を見ていると関係者だけという感じで一般の市民一人一人が、「今日は市制記念日だよ」とか、「式典が行われているよ」というところまでなかなか浸透していないので、市民が身近に感じられるように、同じ日、同じ時刻に何かをやれば良いかなと思う。

委員 事前に市制 80 周年について意見を言う機会があると聞いていたので、たまたま家にあつた市制 50 周年の冊子を見てみた。幾つか事業のアイデアを挙げているが、例えばスイーツを作るという企画も高校生が考えていたら「お、すごいな」と応援したいなと思うし、どんなものができるんだろうとすごく興味がわく。もう少しこういったところに市民の声や若者の声を入れられると良いかなと思う。あと私自身いろいろなイベントを企画する立場だが、例えば、この市制 80 周年を盛り上げてくれる方が多治見にどれくらいいるのかなと想像したときに、私は結構いるんじゃないかと思う。まだまだ隠れた才能を持っている方もたくさんいると思うので、ぜひ活用していただけたらと思う。若いママたちもいるので、そういう人の力をこの機会に活用し

て欲しい。あと、この総合計画の大きな項目、「健康」とか「にぎわい」とか、そういう項目と何かリンクしていてもいいのかなと思う。何か新しいことをやろうとしたときに、「共に」とか、市民の方々の声をどこかに入れていかないと、さっき柴田委員が言ったように、何か言っても「できない」で終わってしまうとなかなか次のアイデアが出てこなくなってしまう。とにかくまずは聞いて、そして何か一つでも形になった、私たちの声が形になった、特に私は高校生くらいの子たちの声が形になると良いと思うし、将来戻ってきたくなる街にもなると思うので、そういう市制 80 周年にして欲しい。

委員 私も子供たちが参加できるようなイベントがあるといいと思った。「タジコン」で高校生が、「くまのがっこう」の喫茶店だったかを提案されていたと思うが、例えばそういう喫茶店を開きますとか、あってもいい。あとは、「やくならマグカップも」の喫茶店とか。また、シンボルマークも大変良い。陶器のことプラス山や緑や川、空の色をイメージしたことから考えると、私としては、一つは陶器を見たいとかっていう方、私の場合だと例えば外国に住んでいる親戚がこっちに来て、「作陶したい」となったときどこに連れて行ったら良いとか、子供向けとかファミリー向けの「こんなところを回ると良いですよ」というコースがあるといい。モザイクタイルミュージアムだったり、ボイス工房だったりについてのマップがあったり、女性だったらスイーツとか可愛くおしゃれに変われるような体験とか、セラミックバレーコースとかで陶器を見たい人のためのコースとか。今の人たちは好みがそれぞれ違って、行きたい場所も違うと思うので、既存のものを活かして、あと自然とかについても、山本委員もいらっしゃるので、「ガサガサ探検」とかそういう目線でのまとめをしていただけると良いかなと思う。

委員 事業案のうち、「子供向けイベント」というところで、子供を巻き込むとあるが、大賛成。少し先のことを考えて、市制 100 周年のときに、丁度いい未来加減かなと思う。例えば 10 歳の小学生に 20 年後どんな多治見だったら良いか。自分はどうなっているか問いかけをして、それを、昔でいうタイムカプセルのようなものを市制 100 周年のときに開いてみるとか、何らかの形で本人に返っていくと、ちょうど 30 歳、大人になり、地域の担い手となる時期に、ふるさとを思い出す一つのきっかけになるかなと思う。市制 80 周年というのが 20 年後の 100 周年を見据えたときに丁度良い年かなと思ったので、ぜひ子供たちの声を 100 周年に繋げて欲しい。

委員 自分だったらどういう事業案を立てるか考えた。この市制 80 周年シンボルマークをデザインした方が携わった笠原町の観光パンフレットを見てすごいなと思ったのが、これを見ると一日のスケジュールが決まるので、観光するときにとっても有難い。これは笠原町の冊子なので、多治見市のいろんな場所でも同様のものを作れるのではないかなと思う。またそれと紐づけて、スタンプラリーとかやれるのではないかな。全部のスタンプを回って市役所へ持ってくと何か、タイルのお菓子とか、三千盛などの名産品をもらえたりすると、多治見市民が多治見市の良いところを回ってくれるのではないかなと思う。ただ予算との兼ね合いもあると思うので参考程度に。

委員 佐藤委員の市制 100 周年を見据えたというお話、大賛成。あと、桑原委員が言われ

たようにまだまだ魅力的な人がたくさんいると思う。例えば、「こんな人が多治見市出身だったのね」という人も結構みえると思う。芸能人の方でも観光大使以外で、例えば黒夢の清春さんや小嶋季代子さんとか、あとメジャーではないですが佐藤梓さんとか多治見出身の歌手の方も多いため、チャリティーコンサートを開いてみたりとか、ただ清春さんと他の方々はいずれも世界観が違うのでできるかどうかは分かりませんが。あと今、テレビに出て当たり前のように皆さんが名前を知ってみえるようなアナウンサーさんとか、そういう人なんかいろいろな部分で協力してもらってPRしていったり。あとは、例えば市制 80 周年のシンボルマークについて、『半分、青い。』ときに幸兵衛窯さんと郵便局がピンバッジを作って販売をしたというようなこともあったが、そういったものも含めていろんな PR 方法があると思う。市制 80 周年って 10 年ごとのものだが、未来に向けてという部分で、いろんな分野で協力して下さる方がいらっしゃるのではないかと思います。あとは市役所の職員さんもいろんなところで活躍されている方がいるので、例えば市役所の職員さん一人一人に、どんな 80 周年にしたいか聞いてみるのも良い。

会長　　たくさんの御意見をいただいたので、ただいまいただいたご意見について、ぜひとも留意いただき、市制 80 周年事業を進めてもらいたい。

<会議終了>